

間瀬内科クリニック

間瀬 恒 院長



川西能勢口駅から徒歩2分。ビルの5階に位置する「間瀬内科クリニック」は内科・循環器内科・呼吸器内科・消化器内科を診療する。院長の間瀬恒先生は1976年に大阪大学医学部を卒業後、大阪大学医学部附属病院の第一内科、放射線科で経験を積み、各地の病院に勤務。救命救急センターや消化器内科、循環器内科といった幅広い診療科で研鑽を積んだという。自身の地元である川西市に同院を開業したのは、1990年のこと。以降、30年以上地域住民との心のつながりを大切にしながら診療にあたってきた。今回は間瀬院長に開業までの経緯や診療で医師として大切にしていること、力を入れている診療内容などについて話を聞いてきた。（取材日2022年8月3日）

幅広い診療内容で地域住民の健康を守る

先生はもともと開業医になることをめざしていたと伺いました。

はい。私は医学部に入学した時から「将来は地元である川西市で開業医になろう」と考えていました。医学生時代や勤務医時代には研究も経験しましたが、やはり臨床で患者さんとしっかり向き合っている時間が好きでしたね。勤務医時代は内科を幅広く総合的に診られる医師になるために、救命救急センターのほか、放射線科、消化器内科、循環器内科などさまざまな診療科で経験を積みました。放射線科では画像検査の結果を詳しく診る診断力が身につきましたし、救命救急センターでは重症の患者さんたちを速やかに診療する必要があったので、バツと診て速やかに手足が動く度胸がついたと思っています。どの診療での経験も開業後の診療に生きていけると感じます。

この地域の特徴や患者さんの傾向などについてお聞かせください。

私が生まれた頃の川西市は、のどかで落ち着いた雰囲気でした。そのうち百貨店ができるなど少しずつ発展していき、人口も増えたので、今では随分にぎやかな地域になりました。当院にいらっしゃる患者さんの多くは、以前からこの地域にお住まいの高齢の方々です。内科ですので、さまざまな症状で繰り返しいらっしゃるリピーターの方が多いですね。遠方からわざわざタクシーでいらっしゃる患者さんも多く、頼りにされていると感じてうれしく思います。心不全、狭心症、心筋梗塞といった循環器疾患で受診される患者さんも多く、急を要すると判断した場合には、速やかにここから救急車で心臓を専門的に診る医療機関に送ります。こうした病気はとにかくすぐに治療が必要なことも少なくないですから、冷静な判断を大切にしています。消化管の内視鏡検査を積極的に行っているため、定期的な胃や大腸の内視鏡検査を受けに来る方も多いです。

現在のスタッフ体制や院内の雰囲気はいかがでしょう。

現在、基本的に医師は私1人で、火曜日の午前だけ消化管の内視鏡検査を担当する先生に来ていただいています。そのほか受付、看護師、診療放射線技師などを合わせて10人のスタッフがいます。スタッフ間で大切にしていることはコミュニケーションですね。朝は必ず朝礼を行い、一人ひとりに仕事に関係のあることから、そうでないことまで、簡単に話をしてもらいます。この時間を取ることで、スタッフがどんなことを考えているのか、どんな人なのか、少しずつわかるようになり、コミュニケーションもより円滑になります。患者さんにも「このスタッフはみんな笑顔で雰囲気がいいね」と言ってもらえることが多く、うれしい限りです。



心臓や膵臓の病気も早期発見し、適切な治療につなげる

こちらではどのような病気や症状を診ているのですか？

当院は、さまざまな症状やお悩みを抱えた患者さんを広く受け入れることを大切にしていますので、どんな症状でもご相談いただけます。また、病気の早期発見にも力を入れていて、症状のない方にも定期的な検査を行うことがあります。例えば、消化管の内視鏡検査は40歳以上で、一度も受けたことがない方にはぜひ受けていただきたいですし、たとえ便潜血反応が陰性でも5年に1回は受けていただきたいと思っています。ですが、特に高齢の患者さんから、大腸の内視鏡検査を受ける前に2リットルの下剤を飲むのがつらいという声を聞くことも少なくありません。そこで当院はCTを使って大腸の様子を調べる大腸CTも導入し、より低いハードルで大腸の検査を受けられるようにしています。もちろん内視鏡検査のほうが病気を見つけやすいのですが、内視鏡検査に抵抗のある方には大腸CTをお勧めすることもありますね。

特に力を入れている診療についてお聞かせください。

私が特に力を入れている分野は、心臓病治療、膵臓の画像診断、痛みの治療の3つです。心臓病に関しては、私は内科の中でも特に循環器内科を専門としてきたので、もともとの得意分野でもあります。また膵臓については、多くが慢性膵炎から治癒の難しい膵臓がんへと進んでいくのですが、長く医師をしていて、膵臓の異常は血液検査では気づけないことが多いとわかったんです。そのため症状がなく、血液検査に異常がない方にもCT検査を行い、膵臓の状態を詳しく診て、慢性膵炎の早期発見に尽力しています。例えば「胃が痛い」「下痢が続く」と受診された方でも、検査をすると膵臓に原因がある場合がありますから、見落としがないように意識しています。そのほか肩が上がらない、膝・腰が痛いといった痛みに対する治療にも力を入れています。

診療の際に先生が心がけていることは何でしょうか。

患者さんとの心と心のコミュニケーションはとても大切にしています。川西市には新規で引っ越してくる方が多い一方で、高齢の患者さんの中には地域でのつながりが少なく、孤独にいる方もいらっしゃるのです。そのため私はわずかな診察の時間の間にも、正面から患者さんの顔を見て、しっかり会話し、メッセージに力を込めることを大切にしています。高齢の患者さんの場合、孤独な時間が長いと認知機能が低下し、認知症の発症につながるといわれています。そうした方の心に何かを伝えられるように、私は診療中に握手をすることもあります。やはり他人の手が体に触れることで、何かが伝わる時もあると感じています。中には私との握手を楽しみにされている方もいて、握手はそのくらい大事なコミュニケーションツールになっています。



名医ではなく、温かな心で接する良医をめざす

患者さんにはどんなときに受診してほしいと考えていますか？

病気の中には症状や検査数値の異常が出にくいものもあります。そのため、症状がある時だけでなく、別の医療機関などで健康診断や人間ドックを行った時にも、検査結果を持って当院へ足を運んでくれるとうれしいなと思っています。検査結果から気になる内容があれば当院でも検査を行いますし、検査後の経過を見ることで、正常範囲内でもちょっとした異常に気づくことができ、病気の早期発見につながられます。

先生ご自身がめざす医師像についてお聞かせください。

めざす医師像については、大学生時代の教授がおっしゃっていた2つの言葉が心に深く残っています。一つは「名医ではなく、良医をめざす」という言葉です。先生はそれ以上詳しく説明されなかったので、意味は自分で考える必要がありました。私は名医とは飛び抜けた技術を持つ医師、良医とは良心的で自分の足りるところ、足りないところがわかる医師ではないかと思っています。足りないところについては勉強することはもちろんですが、その道の専門家に紹介することも非常に大切です。もう一つは「優しい医師であってほしい」という言葉です。医師にとって心の温かさ、優しさは大切な要素だと思っています。

最後に、読者へのメッセージをお願いします。

当院は幅広い症状の患者さんを受け入れていますので、気になることがあればぜひ、気軽に受診してください。できる限りの診療をさせていただきます。また、受診の際はまずご自身の困っていること、つらい症状、知りたいことなどを今一度振り返り、ポイントを整理してお話していただけると、私たちも全貌をつかみやすくなります。体調の悪い時は感情と事実が混ざり合い、うまく説明できなくなることもあるかもしれませんが、一度振り返ってポイントを整理してから話してみると、医師にも事情が伝わりやすくなりますので、受診のこつとして意識していただけますと幸いです。

DATA

医療法人社団 間瀬内科クリニック

〒666-0016 兵庫県川西市中央町5-5 OHMIビル5F

TEL: 072-757-0086

最寄駅: 川西能勢口駅

内科 循環器内科 消化器内科 呼吸器内科 ペインクリニック